

特集企画

イベントを通じて地域に存在をアピールするクラブ



NPO法人Tap ＜新潟県中魚沼郡津南町＞



1

クラブ概要

有志が中心となり地域の問題点を見直してみようと組織を立ち上げたのが、Tapの始まりです。「つながりの希薄化」と「利己主義の台頭」を問題点として、理念を「つながりで人づくりとまちづくりをします。」と決めました。toto助成金を受けている際には事務局を行政の臨時職員が担当し、立ち上げと同時に法人格を取得して町の社会体育事業の受託を開始しました。今では町健康増進施設の指定管理も受託しています。



2

町外親子対象に「雪遊びツアー」、町内旅館との連携で実現

平成26年度から町内の旅館と行政と共に、町外の親子を対象とした豪雪地ならではのかまくらづくり等を行う雪遊びツアーを実施しました。それまでは、地元の子どもたちを対象にそり乗りなどの遊びを実施していましたが、町外の親子を対象にする事業は展開したことがありませんでした。イベントを準備する中で、クラブでできること、できないことが見えてきたため、クラブから旅館へ協力の依頼をしたことをきっかけに、旅館と連携することとなりました。連携により、クラブはイベントの運営をし、旅館は集客、送迎、食事の提供等の役割分担ができるようになりました。雪遊びツアーの実施後「県外の子どもに雪遊びを体験してもらったけど、地元の子どもこそ、かまくらづくりの経験が少ないのでは...」と思うに至りました。その後、更なる発展を目指し新潟県広域スポーツセンターの「総合型地域スポーツクラブ協働展開事業」に応募し、平成27年度から「雪遊びキッズ」、「スノーシューハイキング」、「雪原運動会」の3事業を実施しました。



【新潟県総合型地域スポーツクラブ協働展開事業】

1. 事業の趣旨

新潟県総合型地域スポーツクラブ(新潟県総合型クラブ)の地域における認知度・理解の向上と役割の確立を図り、クラブの自立を促すため、それぞれの地域の実情を踏まえ、各分野と協働してスポーツを活用した質の高い公益事業を提供することができる新潟県総合型クラブを育成する。

2. 事業の実施主体

新潟県総合型クラブで、新潟県広域スポーツセンターが指定する団体。

3. 事業の内容

新潟県総合型クラブが地域の各分野と連携し、スポーツを活用した質の高い公益事業を地域住民に提供。

4. 事業による効果

- (1) クラブの事業の充実・拡大による財源確保(運営安定化)
- (2) 地域におけるクラブに対する認知度・理解の向上、役割の確立



クラブの自立

3

地域資源を「雪」に特化、3事業を展開

【雪遊びキッズ】

町内の子どもたちを対象にして、スコップやスノーダンプといった雪国では欠かせない道具の使い方や雪遊びを体験してもらうだけでなく、雪遊びライセンスを設定し、レベル別にバッジを配布して意欲の向上を図りました。2年目の平成28年度には地元雪まつりでスコップやスノーダンプを使い、大きな雪像を作ることができました。安全に雪で遊べる機会を設けることにより、今の子どもたちも自ら考え、楽しい遊びを発想できることに気づきました。

※雪遊びライセンス

学年ごとに、「雪玉をしっかり作れる」、「〇〇の大きさの雪だるまを作れる」といったように作業を段階に分け、規定の作業ができるとバッジ(学年ごとに色分け)を配布。





【スノーシューハイキング】

雪の上を楽に歩くための道具であるスノーシュー（西洋かんじき）を履いて、雪原をハイキングするイベントを計画しました。町内旅館からは事前に宿泊者への周知や声かけをして集客をしてもらいましたが、当日はあいにくの天候も重なり参加者が0名という、今までにない結果となりました。

2年目の平成28年度には近隣の観光協会やカフェなどの協力者を増やし、津南町に色濃く残る縄文文化と雪国文化に触れる雪上での「縄文ハイキング」に企画を変更し実施しました。近隣の湯沢町に來ている外国人観光客を主な対象として、約1か月間毎日実施できるように観光協会とも協働して事業のPRを行いました。結果的には視察等の受け入れはあったものの参加者実数としては0名でした。

この企画によって観光関係者との多くの新しい「つながり」を持つことができ、Tapを知ってもらいきっかけになりました。また、PRの方法や事業を実施する上での役割分担など観光事業を継続実施する難しさを感じることができました。



【雪原運動会】

町内の雪まつりに来た宿泊者などを対象に雪原運動会を開催しました。愛知県から来ていた家族などが参加して、スノーフラッグや雪積み競争など雪に触れることだけでも楽しそうに活動していました。賞品には地元の特産品を用意して喜ばれました。ただ、参加者は雪遊びができるような服装ではなく、雪の降らない地域から参加する場合の対応策を考えるきっかけとなりました。

2年目の平成28年度には、県内の総合型クラブを対象に計画をしました。クラブ同士の「つながり」が観光にもなると期待していましたが、年度末での開催に加え近隣クラブでは事前に同様の雪イベントを開催していたことで参加クラブはありませんでした。総合型クラブ同士の交流イベントは参加クラブ全体で計画、実施しなければ思うような効果が上げられないことがわかりました。



4

Tapの存在認知 旅館との協力関係構築

子どもたちが雪遊びを体験できたことで郷土教育にもなり、故郷の良さを感じてもらえました。また、この事業を始めるまではTapの存在を知らなかった旅館にも、Tapの活動を知ってもらうことで事業の相談ができ、協力関係をつくることができました。継続して集客できれば、収入増への期待を持てることもわかりました。

そして、今まで観光に携わっていなかったTapが事業や会議などを行うことで観光関係者の意欲向上のきっかけをつくることができました。また、地域活性化の一つとして観光、スポーツツーリズムがあることを関係者で共有できました。



◆不可欠な役割分担と信頼関係

スポーツツーリズムを企画するにあたっては、郷土の資源をもう一度再認識、再確認することから始めなければなりません。そして、企画から周知、実施の過程では様々な関係者との役割分担が必要不可欠です。そのためにはコミュニケーションをよくとり、信頼関係を築かなければなりません。スポーツツーリズムはすぐに結果が出ないため、じっくり継続していくことが重要であり、総合型クラブは受け入れスタッフとして、今後活躍できる機会がありそうです。

スポーツツーリズムに取り組んだことで一番感じたことは、人との「つながり」の大切さでした。これからは理念をもとに長期的なビジョンを創り、様々な人や団体との「つながり」を大切にして人づくりやまちづくり、健康づくりに取り組んで地域に必要なクラブを目指します。

(NPO法人 Tap マネジャー兼事務局長 江村大輔)

クラブプロフィール

設立年月日 平成25年3月26日

所在地 新潟県中魚沼郡津南町大字下船渡丁1633番地1

運営 会員数169名（平成29年5月現在）予算規模9,940万円（平成29年度）

有給職員 8名

特徴 「つながり」を理念に様々な人や団体と活動を展開している。
行政との協働関係を築き、ともにまちづくりに取り組んでいる。
子どもたちの遊び活動とアクティブシニアの健康づくり活動を展開している。
また地域の資源を生かしたイベントも行っている。
ウエイトリフティングの普及や観光との協働にも取り組んでいる。
「Tap」は「Tsunan all people」の頭文字と、「おもしろそうだから私も協力するよ」と肩をたたいて(タップ)一緒に楽しもうという意味が込められている。

連絡先 〒949-8201 新潟県中魚沼郡津南町大字下船渡丁1633番地1

